報道関係各位

令和８年２月２日

地元職人が母校で教える “大工の仕事とものづくりの魅力”
子どもたちが夢中になる「大工の技」体験授業を館腰小学校で開催

名取市建設職組合は、地域貢献活動の一環として、名取市立館腰小学校の児童を対象に、現役職人が講師を務める「特別体験授業」を実施します。本授業は今年で ４ 年目を迎え、実際の大工道具を使った体験を重視している点が特徴です。ノコギリで木を切り、トンカチで釘を打つ本物の仕事を通じて、自らの手で形を生み出す喜びや、ものづくりの心、職人技術の魅力を次世代を担う子どもたちに伝えます。

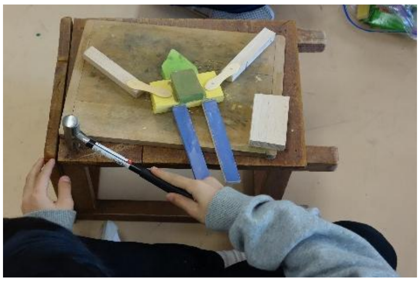
■ 授業の見どころ・ハイライト（過去の授業風景）

① 本物の道具に触れる体験

トンカチやノコギリなど、本物の大工道具を使用し、現役の職人が安全に配慮しながら使い方を丁寧に指導します。

教室に響く釘打ちの音や、真剣な表情で作業に取り組む子どもたちの姿は、普段の授業とは一味違う学びの空間を生み出します。

② 世界に一つだけの作品づくり



市販の木工作キットをベースにしつつ、児童一人ひとりが自由な発想で加工を加えます。作業が始まると教室は一転し、休憩時間になっても手を止めずに作業を続けたいと話す児童が出るほど、真剣な空気に包まれます。

完成する作品はどれ一つとして同じものはなく、子どもたち自身の個性が形となって表れます。

③ 職人技を間近で体感

授業の最後には、子どもたちが選んだ職人との「釘打ち対決」を実施。スピードと正確さを兼ね備えたプロの技を目の当たりにし、「大工ってすごい」「かっこいい」という素直な驚きの声があがります。

裏面に続く

■ 授業実施の背景

近年、子どもたちの将来の夢として YouTuber などが注目を集める一方で、家や道路、学校といった私たちの暮らしを支える建設の仕事に触れる機会は、年々少なくなっています。

本授業は、地域での継続的な活動を通じて築かれた学校との関係を背景に、「地域の仕事や、ものづくりの現場を子どもたちに体験させたい」という学校側の声を受けて実現しました。企画の中心となったのは、同校の卒業生でもある青年部長。自らが育った地域と母校への感謝、そして建設業の魅力を次の世代に伝えたいという想いから、単発ではなく継続的な授業として取り組んでいます。

実際の授業では、子どもたちがノコギリやトンカチを手に取り、自らの手で木を加工します。画面越しでは味わえない手応えや達成感に触れることで、「つくることの楽しさ」や、人にしかできない職人技の価値を実感します。デジタル化が進む時代だからこそ、こうした体験を通じて、ものづくりの心を子どもたちに伝えることを目指しています。

■ 名取市建設職組合の想い

名取市建設職組合は、建設業に携わる職人の団体として、技術の継承だけでなく、地域に根ざした活動を大切にしています。住まいや建設に関する相談を気軽にできる存在であると同時に、地域の子どもたちに「職人技術の魅力」や「ものづくりの楽しさ」を直接伝えていくことも、重要な役割の一つだと考えています。

多様な職業がある中で、建設業という選択肢が子どもたちの記憶に残り、将来の夢を描くきっかけになることを願っています。

■ 開催概要

[日時] 2026 年 2 月 5 日（木） 10:40～12:15 及び 13:20～14:55 4 年生対象 62 名

[会場] 名取市立館腰小学校 （宮城県名取市植松字入生 24）

[講師] 名取市建設職組合 青年部及び熟練職人

■ メディア関係者の皆様へ（取材のポイント）

映像・写真映え

木材と向き合う子どもたちの真剣な表情や、職人との対決シーンなど、写真・映像に適した場面が多数あり。

インタビュー対応可

授業を企画した青年部長（館腰小学校 OB）へのインタビューや、初めて工具を使った児童の感想など

■ 本件に関するお問い合わせ先

【問い合わせ先】名取市建設職組合

各種リンク